



学校だより

横浜市立秋葉中学校

令和2年1月7日発行



電話811-6773 FAX813-9438

SDGsの推進

校長 狩野久幸

新年 あけまして おめでとうございます。今年は、東京2020オリンピック・パラリンピックイヤー。明るく躍動的な1年になるといと思います。

最近SDGs(エスディーゼズ)という言葉をよく耳にします。これは「Sustainable Development Goals」持続可能な開発目標の略称で、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって人類が安定して暮らし続けられるよう決められた、2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標です。

秋葉中学校が今年度、全校生徒を対象に行った「人権作文」「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」や3年社会科の課題「Change the world for peace」、被爆体験者のお話を聞き「命の尊さ」「平和」について考える全校一斉道徳(P2~3参照)はまさにSDGsの推進をめざした取り組みといえるでしょう。

学年や全校から代表に選ばれた生徒は、秋葉祭では全校生徒の前で、校外では横浜市主催のイベントで中身の濃いプレゼンテーションを行いました。

◆横浜市立学校総合文化祭 中学校社会科作品展
ニュースパークイベントホール

『自分の人生は自分で選ぶ“あたりまえ”をすべての女性に』ランドセルギフトから始まった私の平和活動

◆SDGs未来都市 子どもエコフォーラム 横浜大さん橋ホール
『海の命を守る』～マイクロプラスチックについて～



2030年には中学生の皆さんは成人し、社会の主役となっていることでしょう。「食べ物を粗末にしない」「プラスチックごみを出さない」「エアコンを使いすぎない」…。一人ひとりにできる小さな行動も集まったら大きな力です。

SDGsのキーワードは『誰一人取り残さない』です。豊かな未来のため自分たちにできることから、始めてみましょう。



自らの体験を語る末岡さん

生命の尊さを生徒に考えさせようと、秋葉中学校が全学年を対象に11月28日、広島で被爆経験をした末岡昇さん(82)の講話を聞く授業を行った。末岡さんが過酷な体験談を語るにつれ、会場となった体育館は静寂に包まれていった。

広島で被爆した末岡さん 秋葉中生に核の怖さ伝承

「自分のこととして考えて」
1937年東京に生まれ、末岡さんは、7歳のときに父親の生家があった広島市に転居。祖父母などからなる大所帯で暮らしていた。迎えた8月6日は前日から偶然にも、自宅から約20キロ離れた宮島町に弟を出産したばかりで、転居していた母親に会いに行つて

「全校道徳」として行われたこの授業。生徒に多角的に原爆・核を捉えさせるため、8人のアメリカ人が広島、長崎に投下した原爆を肯定するか、否定するか討論を行う「ストーリー」の小説「ある晴れた夏の朝」のあらすじを事前に読ませ、自由に自分の考えをワークシートに記入させた。その上で広島平和文化センターが委嘱している被爆体験伝承者の末岡さんの講話を行った。念入りに準備を整えた理由を狩野久幸校長は「核問題は難しいが、中学生の段階で考えさせたかった」と話す。

「全校道徳」として行われたこの授業。生徒に多角的に原爆・核を捉えさせるため、8人のアメリカ人が広島、長崎に投下した原爆を肯定するか、否定するか討論を行う「ストーリー」の小説「ある晴れた夏の朝」のあらすじを事前に読ませ、自由に自分の考えをワークシートに記入させた。その上で広島平和文化センターが委嘱している被爆体験伝承者の末岡さんの講話を行った。念入りに準備を整えた理由を狩野久幸校長は「核問題は難しいが、中学生の段階で考えさせたかった」と話す。

事前学習の段階では原爆否定派は321人、肯定派126人だったが、講演後は肯定派22人と大幅に減少した。生徒の一人は「当初は肯定派だったが、末岡さんの話を聞き、原爆は絶対になくさなければいけない」と語った。

その後、父親は肺がんで亡くなり、自身も大腸がんなどを3回経験する。末岡さんは「核根絶は難しい。しかし今後市民レベルで訴えていきたい。子供たちには『自分の身に起きたら』という視点で核兵器を考えてほしい」と話す。

その瞬間を振り返り、「私は12日後の18日に広島市に入った『入市被爆者』となる」と語った。幸い父親は生存していたが、祖父母などは命を落としてしまった。



スライドを見ながら話しを聞く生徒

《全校道徳》 事前学習資料「ある晴れた夏の朝」を読んで考えたこと



小手鞠い著、偕成社
2018 全国学校図書館
協議会・選定図書

◆日本が戦争をやめないということについてはよくわかっていました。しかし、アメリカの答えとして出した「原爆」はとても自分勝手なものだと思います。私は、よくこう思います。「自分の気持ちを相手に知らせるには、言葉で発するよりも行動で示すべきだ」しかし、アメリカの場合では、平和を望んでいるはずなのに、誰かが必ず死ぬ決断をとっていました。平和というものは、誰もが対等に接し合えることだと思います。が、アメリカは「原爆」を用いて強引に日本に降伏させようとしていました。戦争が終われば世界は平和になるといわれますが、戦争の終わりが「死」であったと考えると私は納得できません。

◆何があっても原爆は落としてはいけないと思うし、罪もない幼子までを苦しめてしまったから。もし、原爆によって戦争の被害者を少なくできたというのだとしたら、もっと良い方法があったはずだと思う。敵国を考えられなかったアメリカの大統領だけでなく、この戦争で誰が苦しむかを考えず戦争を始めてしまった両者がいけなかったのではないかと。自国（周り）はもちろん、同じ生物である限り、他国（全体）を見なければならぬはずだ。



◆不運が重なり、宣戦布告ができなかったとしてもしてないことは事実であるし、真珠湾攻撃は、原爆が落ちた原因となった攻撃だが、自ら仕掛けに行っているから日本は、その反撃を受けると分かっている。それで反撃をされているというのには日本にも原因があることが分かっているからだと思う。この世の中、平和を目指していても戦争で勝負をつけようとしていたことは間違いないし、原爆が落ちて世界が戦争に対して考え直した戦争でもあるため、どれだけ日本の被害が大きくてもこれからの平和につながっていくと思った。

被爆体験者 末岡 昇さんの講演を聞いて感じたこと

【1年】◆講演を聞いて、ますます原爆否定の気持ちが強くなりました。今、現在、もし核兵器をまた使うとなったら、広島と長崎と同じようなことがもう一度起こることになる。それは良くないと思います。多くの犠牲者を出しても戦争をする意味があるのか。落とされた国の人々はどう感じるのかを考え直した方がよいと思いました。最後にこのような出来事が二度とないようにするにはどうしたらよいかを今一度、考え改めることが、1945年からの進歩だと僕は考えます。

◆原爆で何万人もの人の命が奪われてしまうには、ショックよりも原爆を落としたアメリカ軍に怒りを覚えた。だけど、アメリカ軍が原爆を落としていなかったらこのまま戦争が続いて、もっとなくなる人が増えていた。と考えるとアメリカ軍に感謝するべきか。亡くなった人を思い、原爆を使用したアメリカ軍に怒りをおぼえるのか。難しい選択だと思った。話しを聞いて、今の自分たちの暮らしは改めて平和だと実感した。

◆事前学習では肯定派だったけれど、末岡さんの話を聞いて、「原爆は絶対なくさないといけない」と思いました。私たちが、「普段しているなにげない日常がその日の朝にもあって、そこから多くの人々の命が一瞬にして消える」考えるだけでもすごく怖いもので、実際に経験した方は、本当に思い出したくないような話だと感じました。末岡さんの話で戦争、原爆のことについて深く考えることができた貴重な体験になりました。

◆「悲しい」などの感情は、当時あまりなかったと聞き、原爆がどれほど恐ろしいものなのか。そして、人々にどのようなことを思わせたのか、少しは、本などを通して考えたことはあったが、実際に話を聞き、これまで以上に原爆の恐ろしさを考えることができました。「自分の親しい人だけがなくなるのではなく、市全体が被害に遭ってしまった」と聞き、アメリカ軍への怒りなどの感情があることを前提に話を聞いて、絶対に原爆を二度と起こしてはならないと感じました。



【2年】◆実際に被爆された方のお話を聞いて、そのつらさを知り、原爆が良かったこととは思えなくなりました。ただ、悪かったことでもないと思います。ひどいことだと思いますが、この原爆という体験をしたからこそ日本では銃の取り扱いに禁止がかかっていたり、人を殺した人には大きな罪が与えられたりと、命を大切に扱うようになりました。原爆のおかげではないかもしれませんが、その被害を受けなかったら、きっと戦争や核について無関心だったと思います。今回貴重な体験を聞かせて頂きありがとうございます。

◆今回、末岡さんのお話を聞いて、やはり核兵器は恐ろしく絶対に使ってはいけないと思った。でも、実際に、北朝鮮が核をアピールしていたり、中国とアメリカの貿易戦争、香港のデモだったり世界の各地が不安定になっている中、核を全く持たないというのも怖いと思った。世界唯一の被爆の日本で生きている私にとっては痛ましい事件であるが、グローバル化が進んでいる今、世界に目を向けるべきだと思う。核の廃止だけが、すべてじゃないのかなと思った。◆「非常につらかった」ことが分かりました。原爆がとても恐ろしく、それ以上に強力な武器（核）は、使わないで欲しいと思います。また、「悲しみは、その後からで、ただ、黙々と作業をするだけ」とおっしゃっていた時、放心されるくらいの一瞬で、今まで築いてきた家族や友を消す恐ろしいものがある」と一番に心に残ります。そして、罪のない、言われるがままにやってきたつらい思いをしていた市民に追いつけをかける核兵器の使用を否定します。また、この惨劇は、今後に伝えることで、「末岡さんの望む世界は来るんだ」と思います。

◆事前学習の時点では、原爆が完全に「悪」だとは、考えていなかったが、今日の講演を聞いて、「自分が知っていた」「思っていた」ことよりも大きな被害があって、苦しい思いをされたと分かり、今でもそういう思いをもっている方々がいると知れた。そのため、原爆に肯定することに抵抗を感じた。また、今日は、否定派の方の話を聞いたので、機会があれば、肯定の方の意見を聞いたり、調べたりしてみたい。自分たちは、今日、聞いたことをしっかりと忘れず、次の世代に受け継がせていかなければならないと思った。

◆政府の力が強くて、民衆が反対できず、原爆の被害を受けてしまっている人の気持ちが分かった。小学生の時に一度だけ被爆体験伝承者の話を聞いて原爆の詳しいことを知った。私の考えは、肯定派だが、「核はなくすべきだ」と考える。広島、長崎での被爆は、どんな事情があろうとそれは事実である。私たちは、今ある平和な世の中に感謝し、未来のために核をなくし、戦争で亡くなった人の想いを無駄にすることなく、広島や長崎での惨劇を二度と行われぬようにすると同時に戦争が行われぬようになったら良いと思う。

【3年】◆実際に聞いて、「本当にあったんだな」とより実感しました。アメリカ軍にも日本軍にも悪いところはあったんだねと思うと同時に一番の被害者は、「国民なんだな」と感じました。つらいことを話してくれた末岡さんの思いを、周りの人たち、そして次の世代までも忘れないように話していきたいと思いました。

◆初めて、被爆した方のお話を聞いて、すごく重たく「平和」ということについて考えれば考えるほど難しいなと思った。はじめは、日本の攻撃が原因で戦争が始まってしまったため、世界全体からの目線で肯定派だったけれど、被爆してすぐに悲しみを感じなかったということを知り、経験のない私たちには、どれだけ知ろうとしても感じられないくらいのつらさがあったことを知るとどちらともいえないと思った。けれど、しっかり、これから核問題や平和について考え、理解を深めて続けなければならぬと思った。

◆広島や長崎での核の使用は、正しかったのだと思った。日本からすれば、多くの命を奪ったのかもしれないけれど、世界から見れば、平和を取り戻してくれたものであると思ったから。あれ以上、戦争を続けていたら、もしかしたら、今のような先進国としての日本はなかったかもしれないので、日本にとってもよかったのではないかと考えた。だからといって、多くの人々の命を奪ったことにはかわりはなく、核兵器を使わなくてはならないような状況をこれから生み出してはいけないのだと思った。

◆体験者である末岡さんのお話を聞き、被爆者と言われると遠い人のような気がするけれど、実際は、私たちが変わらない日常を送っていたことを知りました。やはり、末岡さんにとって辛く話をしたくない内容だったと思うので、私たちは「伝えていきたい」という思いを受け継いで、次の世代に渡していかなければいけないと思った。末岡さんが教えて下さった当時の状況は、私たちが考えるより、恐ろしいものだと知りました。原爆の恐ろしさを知らなければ、核による被害は、また、日本で起こってしまう、決してそうしてはならないと思いました。

◆まず、原爆での被害者が広島の人35万人中、14万人もの方が亡くなったと聞き、改めて原爆の恐ろしさを実感した。そして、原爆が落とされる前は、いつものように朝ごはんを食べ、仕事に行くといういつもと全く変わらない日で、鈍い音が鳴った後に雲が空一面に広がったと聞いて、一瞬で雲の形などを変える威力があったと思うと、とても怖くなった。自分は、今日の末岡さんのお話をしっかり心にしまい、今、自分がどれだけ幸せかということに感謝しながら生きていきたい。



生徒会役員選挙



生徒会役員選挙が行われ、活発な選挙活動と立会演説会・投票を経て、新役員が選出されました。今後、公約を行動に移し、秋葉中学校を発展させてほしいと思います。

青少年防災対応力強化研修

戸塚区役所・戸塚消防署主催の研修会が横浜市消防訓練センターで開催され、保健安全委員の代表生徒が参加しました。大地震・災害を想定しての実践的な訓練が行われ、様々なことを学びました。



学校保健委員会



今年のテーマは「けが0をめざして」でした。運動部を中心に多くの生徒が参加しました。最初に保健安全委員会のプレゼンテーションがあり、後半は大学の先生の指導で、体ほぐしや体力向上のストレッチなどを実際に体験しました。

2年おにぎりパーティー

自然教室で田植えをしたお米が収穫され送られてきました。クラスごとにおにぎりパーティーを行い、新米をおいしくいただきました。



1・2月のおもな予定

- | | | | |
|----|-----|-----|-------------------------------------|
| 1月 | 7日 | (火) | 全校集会、生徒会役員認証式 |
| | 8日 | (水) | 書き初め展教室展示 |
| | 9日 | (木) | ～17日(金)校内書き初め展 |
| | 14日 | (火) | 生徒会専門委員会(3年生最終)、体育着販売 |
| | 15日 | (水) | 中央委員会 |
| | 16日 | (木) | 2年職場体験事前訪問、3年私立高校推薦入試出願 |
| | 22日 | (水) | 3年私立高校推薦入試・合格発表 |
| | 23日 | (木) | 2年職場体験 |
| | 24日 | (金) | 3年私立高校一般入試出願 |
| | 28日 | (火) | 3年公立高校共通選抜入試出願 |
| | 30日 | (木) | 1年職業講話、3年学年末テスト(英語・数学・理科) |
| | 31日 | (金) | 3年学年末テスト(社会・国語・学活) |
| | | | 6、7組 市合同学芸会(西公会堂) |
| 2月 | 3日 | (月) | 生徒会専門委員会(1、2年生最終) |
| | 6日 | (木) | 卒業式生徒職員打ち合わせ |
| | 10日 | (月) | ～11日(火)私立高校一般入試・合格発表 |
| | 12日 | (水) | 1、2年学年末テスト(英語・社会・技・家) |
| | 13日 | (木) | 1、2年学年末テスト(国語・保体・音楽) |
| | 14日 | (金) | 1、2年学年末テスト(数学・理科・学活) |
| | 14日 | (金) | ～18日(火)公立高校共通選抜入試・面接・特色検査 |
| | 17日 | (月) | 6、7組遠足 |
| | 20日 | (木) | 1、2年市学力・学習状況調査(国語・理科・社会・数学・英語・生活調査) |
| | 21日 | (金) | 3年講演会「命の授業」 |
| | 26日 | (水) | 3年卒業遠足 |
| | 27日 | (木) | 3年救命救急講習会 |
| | 28日 | (金) | 公立高校合格発表 |

